

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 地域健康増進学教育研究分野 大沼 由香
指導教授氏名	井原 一成
論文審査担当者	主 査 大門 眞 副 査 福田 眞作、津田 英一
<p>(論文題目) エネルギー産生栄養素摂取バランスと内臓脂肪との関連 —岩木健康増進プロジェクトでの横断研究—</p> <p>Relationship between the intake balance of energy-providing nutrients and visceral fat in the general population -A cross-sectional analysis in the Iwaki Health Promotion Project-</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>内臓脂肪型肥満は、肥満関連の障害に結びつく基本となる病態と理解されているが、申請者は、それと関連する栄養摂取バランスを一般住民対象に解析した。【対象と方法】対象者は、2015 年度「岩木健康増進プロジェクト」の参加者で、栄養調査のアンケート（自記式質問用紙（BDHQ 等））に回答した 713 名（男/女、292/421）。インピーダンス法で測定した内臓脂肪面積(VFA)を従属変数とし、推定摂取エネルギー（たんぱく量（P 比）、脂質量（F 比）、炭水化物量（C 比）、及び、それらの比（C 比/（P 比+F 比）、P 比/（F 比+C 比）、F 比/（C 比+P 比））との関連を、男女別、年齢別（若年群（20 歳以上 40 歳未満）、中年群（40 歳以上 59 歳未満）、高年群（60 歳以上 70 歳未満））に回帰分析により調べた。その際、年齢、BMI、喫煙本数、運動量、飲酒量、閉経の有無で統計学的に補正した。統計解析は IBM SPSS Statistics Ver.18 により行い、有意水準を $P<0.05$ とした。【結果】男性は全年齢群でいずれのエネルギー産生栄養素も VFA と有意な関連を認めなかったが、女性は中年群で F 比、飽和脂肪酸エネルギー比、F 比/（C 比+P 比）、が有意な負の相関を、高年群では C 比、C 比/（P 比+F 比）が有意な正の相関を、P 比、P 比/（F 比+C 比）、F 比、F 比/（C 比+P 比）が有意な負の相関を示した。女性の若年群では有意な相関はみられなかった。【考察】男女別年代別の検討で、女性の中高年群でのみ VFA とエネルギー産生栄養素バランスとの関連が見られ、女性ホルモンの低下が、高 P 高 F 低 C 比食の腹腔内脂肪の蓄積への影響に関与している事が示唆された。</p> <p>一般住民の女性の中高年においては、内臓脂肪型肥満の予防のために、少なくとも閉経後は、単に低 C 比食にするだけでなく、高 P 高 F 低 C 比とバランスをとった食生活をする事が良い可能性を示唆した本研究は、予防医学の観点から考えて重要なもので、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学会誌 印刷中